

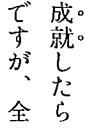
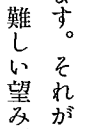
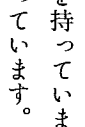
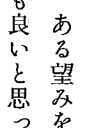
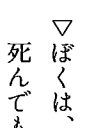
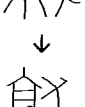
就

六年

筆順
オン

12
シユウ・シユ
つゝくける

成り立ち



宮殿の形を表した「京(2年113)」と、足の悪い犬の形を表した「尢」とを組み合わせて作った字です。

足の悪い犬は、野犬としては独りで生きて行くことができませぬ。そこで、生活の豊かな宮殿に住む人たちの食べ残しをもらって、宮殿に「よりつく」ようになりました。それで、「よりつく」という意味を表しました。

また、「うまくいく」という意味にも使われます。【例】成就。

使い方

▽わたしのおじさんは、今年ある会社に就職しました。おとうさんとおかあさんは、就職祝いに何が良いかなどと相談していましたが、考えた末に、革製の黒い手帳をプレゼントしました。

▽ぼくは、ある望みを持っています。それが成就したら死んでも良いと思っています。難しい望みですが、全力をつくせばできるかもしれません。この望みがぼくの生きがいです。

熟語例

▽去就(離れ去るか、よりつかか。行くか、とどまるか。「〇〇氏の去就が注目を集めている」などというふう

に、つかいます。)

▽就職(職業に就くこと。)

▽就学(学間に就くこと。とくに、小学校に入学することを言います。「ぼくの弟も就学年齢に達しました」などというふう

に、つかいます。)

▽成就(うまく成しとげること。「年来の夢が成就した」

などというふう

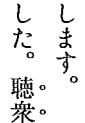
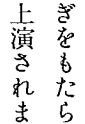
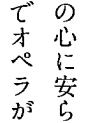
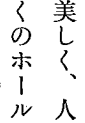
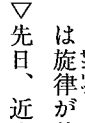
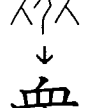
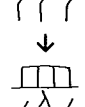
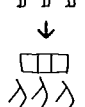
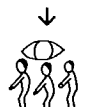
衆

六年

筆順
オン

12
シユウ・シユ

成り立ち



「目」という字が変化して「血」という字になったものと、「人」という字が三つ集まった形の「衆」とを組み合わせた字です。

古い字は「衆」でした。「大ぜいの人」という意味を表した字です。「眾」は、「大ぜいの人が入る」意味で、「衆」に「目」を加えたものです。【例】衆人、大衆、民衆、群衆、聴衆、衆議、衆目。

また、「人」に限らず、「多くの」という意味にも使われます。【例】衆国。

使い方

▽クラシック音楽は、今までは一般大衆向きではないと言われて来ました。どこか堅苦しく、難しいというイメージがあったからです。けれど最近若い人の間にクラシック音楽がはやり始めました。クラシック音楽は旋律が美しく、人の心に安らぎをもたらします。

▽先日、近くのホールでオペラが上演されました。聴衆は見事な歌唱に聴きほれていましたが、オペラが終わると盛んな拍手を歌手たちに送りました。

熟語例

▽衆人(多くの人。大ぜいの人)

▽大衆(多くの人々。一般の人々)

▽民衆(世間の人々。庶民)

▽群衆(一か所に集まった大ぜいの人々。「交通事故の現場には群衆がごったがえして、救急車がなかなか通れなかった」などというふう

に、つかいます。)

▽聴衆(音楽や講演などを聴くために集まった人々)

▽衆議(多くの人々の合議。「衆議一決、明日は遠足に行くことに決まった」などと、つかいます。)

▽衆目(多くの人々の目)